

BOOK Review

医療者のための結核の知識 第5版

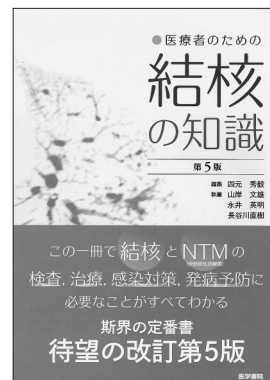
評者 門田 淳一 大分大教授・呼吸器・感染症内科学

『医療者のための結核の知識 第5版』を手にとって読んでみた。本書は初版が2001年に発刊されて以来、実践的でわかりやすい記述に定評があるロングセラー書籍である。数年ごとに改訂され今回で第5版となるが、改訂ごとに新しい知識が各章に盛り込まれており、今版も実践的でわかりやすく記述され読み応えのある内容となっている。

結核の歴史・疫学から始まり、病態生理などの基礎知識、検査・画像・診断、治療、感染対策、発病予防、免疫不全と結核、および潜在性結核感染症など、医療従事者にとって必要な知識がコンパクトにまとめられている。特に各項目の冒頭にはポイントが記述され、加えて図表や画像、フローチャートが随所に配置されており、また抗結核薬の薬剤見本の記載もあり、視覚的に理解しやすい配慮がなされている。結核患者の入院から退院までのクリティカルパスも紹介されており医療従事者にとっては非常に有用である。さらに、コラムにも結核診療の問題点について興味深いエキスパートオピニオンが記載されている。一方、最近では非結核性抗酸菌症の罹患率が上昇し結核を凌駕するようになってきている背景もあり、今回の改訂では非結核性抗酸菌症の章が充実している。

最後にはさまざまな場面での結核あるいは非結核性抗酸菌症の症例を提示することで本書で学んだ知識を再確認できる構成となっている。付章には感染症法関連の届出書式の例が参考資料として示されており、結核診療にまつわる諸手続きに関しても見通せる内容である。

わが国では結核罹患率の減少に伴って結核病床を持つ医療機関数が減少する一方で、身体合併症を有する高齢者、医療の進歩に伴う免疫不全患者やがん患者などにおける結核の発病リスクが高くなっているため、一般の医療施設や介護施設など、幅広い診療科・部門のスタッフが結核患者と遭遇する機会が増加している。このことから結核医療の専門施設・専門医だけでなく医療に携わるスタッフ全員が適切に結核対応ができるように知識を持つことが大切である。本書は、その意味において初学者から若手医師、感染症診療・管理全般に携わる医師、および看護師や保健師などを含め、結核感染・発病リスクの高い免疫不全患者、高齢者、がん患者等の医療、ケア、リハビリテーションにかかわる全ての職種に有用な書籍である。結核は空気感染で伝播する公衆衛生上極めて重要な疾患であるため、ぜひ本書を日常診療の必携書として活用していただきたい。



四元 秀毅 編, 山岸 文雄・永井 英明・長谷川 直樹 執筆
B5判/226頁/2019年/定価(本体3,400円+税)/ISBN978-4-260-03825-6/医学書院刊